



逆カルチャーショック

Reverse Culture Shock

市民の皆さん、明けましておめでとうございます!今年もよろしくお祈りします!

皆さんのご存知のとおり、外国に行った時に自分の文化と異なることにショックを受けることをカルチャーショックと言いますが、「逆カルチャーショック」というものもあります。これは、外国に長期間住んで、帰国後に自分の国の文化や習慣にショックを受けることです。なぜこんなことを感じるかというと、長らく外国に住むと、その国の文化や習慣に順応するので、前は当たり前という風に考えた自分の国の文化や習慣の不思議さに気がついて、「私の国は変だな」と思ってしまいます。今月、私の母国であるアメリカに帰った際、最初に感じた逆カルチャーショックについて話したいと思います。

まず、ニューヨーク空港のターミナルに到着するとすぐに、逆カルチャーショックを感じました。周りの人々を見ると、アメリカ人は日本人より比較的に大きい体(特にお腹)だったからです。もちろん「アメリカ人は日本人より大きい」とよく言われますが、その時はビックリする程感じました。次に、空港に両親が迎えに来てくれたお父さんの車に乗ったら、「あら、左ハンドルだったね」と改めてビックリしました。それから実家に着いたら、お父さんが先に家に入りましたが、「靴を履いたままで入ったんだ!」ととっさに思いました。気が付いたら、お父さんに「靴脱がないの??」と言っていました。

また、日本では日本人と日本人にみえるアジア系の人の人口が圧倒的多数なので、アメリカに帰るとアメリカは多くの違う人種の人と一緒に住んでいる国だということに新鮮な視点から見えるようになりました。日本だと、人の顔を見て誰が日本人なのか高い確率で見分けることができますが、アメリカは違います。アメリカという国は色々な人種、宗教、民族等を占めているため、人の顔を見るだけで誰がアメリカ人なのか見分けができません。これはアメリカの独特の特徴の一つだと思います。

皆さん、逆カルチャーショックを感じたことがありますか?自分の国なのにその環境になかなか馴染めないというのすごく変な感じがすよ。今は日本に居ますが、その変な感じがまだ少し残っています!

Happy New Year everyone! I am very much looking forward to the New Year! As I'm sure you all know, the feeling of shock that comes from visiting a foreign country and experiencing culture and customs that differ from your own is called, "Culture Shock." However, there is also something called, "Reverse Culture Shock". This is a feeling of shock that comes from re-experiencing your own culture and customs after living abroad for a long time. The reason you feel this way, is because you begin to grow accustomed to a foreign culture when you live in it for long enough, so when you return home, you feel kind of like, "Wow, my country is weird." This month, I would like to tell you about some of the reverse culture shock that I experienced while I was in America.

First, when I arrived at JFK airport, I immediately felt surprised by how comparatively large Americans are to Japanese people (especially around the mid-section). Of course, it is often said that Americans are bigger than Japanese people, but I had been away for so long that it literally shocked me to be surrounded by so many big people. Next, when I left the airport and got into my dad's car, I felt a little bit of shock again when I re-realized, "Oh yeah, the steering wheel is on the left!" After that, when we got home, my dad went into the house first and walked right in without taking off his shoes. Strangely, I found myself saying, "Hey, aren't you going to take your shoes off?"

Also, in Japan, an overwhelming majority of the population is made up of either Japanese people or people from other parts of Asia who might "look Japanese". America, on the other hand, is a country made up of people from all different backgrounds, and I got to experience that from a fresh perspective due to reverse culture shock. In Japan, you can very effectively guess whether or not someone is Japanese just by looking at them. America is different. Americans can be any race, religion or ethnicity, so you can't tell whether or not someone is American simply by looking at their face. I think this is a unique characteristic of America.

So, have you ever experienced reverse culture shock? It's a really weird feeling to have a sense of disconnect with the environment in your own country! Even though back in Japan now, that weird feeling still hasn't entirely gone away.



たなはら すずなちゃん(0歳) 港川在



かでかる ひろと 嘉手刈 大翔ちゃん(0歳) 経塚在



まへしろ なつき 眞栄城 奈都香ちゃん(3歳)
まへしろ りつき 眞栄城 莉都香ちゃん(0歳) 沢岬在

「てだっ子STUDIO」写真募集

●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
窓口へ直接提出も可。集合写真は不可。
※被写体の子ども(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)
一言コメントの記入を忘れずに!

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎(876) 1234(内線2613・2614)
E-mail:kokusai@city.urasoe.lg.jp

ハイサイ こちら市長室!

「浦添の伝統芸能」

新年あけましておめでとうございます。お正月は、日本の伝統芸能に触れる良い機会ですが、私たち浦添にも素晴らしい古くからの伝統・民俗芸能が残されています。

市長になって感謝していることの一つは、各地の伝統行事に参加できることです。先日(平成27年)57年ぶりに復活した伊祖大綱引きに参加しましたし、城間の松明大綱引きでも西原の大綱引きでも市民の皆さんと一緒に綱を引かせて頂きました。私は市長になる前は、生まれ育った宮城地域でのイベントばかりに参加していましたが、市長になってからはそれこそ浦添全域を見て回る機会に恵まれ、それぞれの地域で大切にされてきた素晴らしい伝統芸能の魅力の虜になっています。例えば、仲西や

内間、勢理客には有名な獅子舞がありますが、市長になって十五夜に輝く神々しい月光の下で舞う獅子たちを初めて見た時は心から感動したのでした。同じように見える獅子舞でも、それぞれの地域で微妙に動きなどが違い、とても興味深いものがあります。

また、前田では勇壮な伝統芸能の前田棒がしっかりと受け継がれていますし、内間の棒も有名で、旧暦の8月15日に獅子舞と一緒に披露されています。また、お祭りの時に場を盛り上げてくれるのが、旗頭の男たちです。伊祖、城間、小湾、経塚、前田、西原がしっかりと伝統を継承しています。また、城間では綱引き前に女性だけで行われるガトーや、小湾のアギバトー、経塚金鼓隊なども大変ユニークで、是非多くの方にご覧になって頂きたいと思っています。



浦添市長 松本哲治

でも、私が本当に注目してほしいのは、これらの伝統芸能を継承し次の世代に繋いでいこうと努力している人たちです。伝統芸能そのものも素敵ですが、それを支える責任と誇りに溢れた彼らこそが浦添の宝なのです。今年(是非、各地域の伝統芸能を鑑賞する!そんな目標を立ててみてはいかがですか?)



問い合わせ
秘書課 ☎(876) 1234
(内線2563)

文化課発信

うゐむー



ありんくりん

第22回

～ 劇聖・玉城朝薫の墓 ～

皆さん、明けましておめでとうございます。

さて、今回紹介する文化財は、組踊の創始者である玉城朝薫(1684～1734)の墓です。芸術的才能が豊かだった朝薫は、34歳の時に冊封使歓待の為の踊奉行に任命されます。そして、音楽と舞踊、台詞で構成した組踊を生み出し、執心鐘入や二重敵討など「朝薫五番」と呼ばれる5つの名作を残します。外交官としての一面も持ち、江戸や薩摩に赴く事も多く、その際に能や歌舞伎など大和芸能にふれたことが組踊創作に影響を与えたといわれています。

玉城朝薫の墓は前田トンネルの上に位置しており、見学が可能です。亀甲墓のように見えますが上から見ると四角形に近い形をしており、屋根はあまり大きく盛り上がりません。墓庭の石垣や縁石に曲線を用いる点も大きな特徴です。墓室内は、天井を4本の柱で支える構造となっており、県内にある墓の中でも稀な造りをしています。厨子龕は23基が納められ、そのうちの1つは蓋に記された銘書から朝薫のものであると確認されました。

年初めに朝薫の墓など琉球芸能のゆかりの地を巡ってみるのはいかがでしょう。琉球芸能の見方が変わってくるかもしれません。



↑玉城朝薫の墓



問い合わせ 文化課 内線6214・6217